

第 126 回 信州整形外科懇談会

日本整形外科学会認定教育研修講演

(日整会 専門医 1 単位)

講師：愛知医科大学医学部 整形外科

主任教授 出家 正隆 先生

演題：変形性膝関節症に対する最近の知見

日 時：2021 年 2 月 20 日 (土) 12:40～

会 場：Zoom ミーティングによる Web 開催

参加費：3,000 円 (初期研修医、コメディカル；1,000 円) (参加には事前の申し込み、参加費振り込みが必要になります。当日の受け付けはできません。)

抄録掲載料：1,000 円 (発表者)

単位申請料：1,000 円 (日整会教育研修単位取得希望の場合、事前に単位申し込み、単位料振り込みが必要になります。申し込み時に日整会の会員番号が必要となります。)

※ 当日リアルタイムで Zoom ミーティングにご参加いただき、①Zoom 上でのビデオ ON (顔出し) および②参加ログを確認し、単位を認定させていただきます。当日画面上で受講が確認できない場合は単位認定が出来ませんのでご注意ください。

発 表：1 例報告 1 題 4 分、その他 5 分、討論 2 分、リアルタイムの Zoom ミーティング
発表者は当該セッション中、ビデオ ON、発言時以外マイク OFF でお願いします。
その他の先生は発言時にビデオとマイクを ON にしてご発言ください。

抄 録：信州医学会雑誌に掲載されます。

* 投稿規定に従い 当日までに、Google フォルダ内のファイルに上書きする形でご入力下さい。

当番幹事 信州大学医学部整形外科

高 橋 淳

信州大学整形外科懇談会事務局

TEL 0263-37-2659 (直通) FAX 0263-35-8844

共 催 信州整形外科懇談会／科研製薬株式会社

参加方法と発表形式について

信州整形外科懇談会 入力フォーム

<https://forms.gle/UVsSVjg7F8tbB78A7>

参加方法

Google フォーム <https://forms.gle/UVsSVjg7F8tbB78A7> より必要事項を入力後に下記口座へお名前と施設名を御明記の上お振込みください。

八十二銀行 信州大学前支店 普通口座 142543
口座名義：信州整形外科懇談会事務局

参加費などの振込みが確認できましたら、Zoom ミーティングへの参加 URL をメールにてお知らせいたします。

当日、届きました URL よりエントリーして Zoom ミーティングへのご参加をよろしくお願いいたします。

参加費振り込み締め切り：**2021 年 2 月 19 日(金)12:00(正午)**

※手続きの都合上、早目の申し込み、振込みにご協力をよろしくお願いいたします。

発表者の方へ

① 発表用音声付き動画ファイル

ファイル提出用フォルダ内に PowerPoint ファイルからの音声付き動画作成マニュアルがありますので、それを参考にして動画ファイルを作成してください。

発表用動画ファイルはファイル提出用フォルダ内に提出してください。

事務局で集め、当日再生します。再生中はカメラ ON、マイク OFF でお願いします。

動画での発表時間は 1 例報告 4 分、それ以外 5 分でお願いいたします。

発表用動画ファイルの提出締め切り：**2021 年 2 月 17 日(水)**

※動画ファイルの再生を事務局で確認するため、締め切り厳守でお願いいたします。

② 信州医学雑誌用の抄録(本文 400 文字)

ファイル提出用フォルダ内の「信州医学雑誌用抄録ひな形(400 字)」(Word ファイル)に上書きして信州医学雑誌用の抄録を作成してください。

抄録には演題名、所属、演者名、400 字以内の本文をご記入お願いします。

信州医学雑誌用抄録提出締め切り：**2021 年 2 月 20 日(土)**

抄録投稿規定

- ①当日までに、Google フォルダ内のファイルに上書きする形でご入力下さい。
- ②形式は例を参照して作成してください。
- ③本文は 400 字以内（25 字×16 行）としてください。
- ④演題名、所属、演者名、本文の誤字脱字を入念にチェックして提出してください。

演題番号	演題名
施設名 演者名 : (演者に○をつける)	
本文	

投稿例

4. 第3楔状骨に発生した骨巨細胞腫の1例
信州大学整形外科
○吉田和薫, 吉村康夫, 礒部研一
新井秀希, 青木 薫, 加藤博之

症例は30歳男性．階段昇降後に右足部痛を自覚．他院で右第3楔状骨に骨透亮像，病的骨折を指摘され当科紹介となった．単純X線で第3楔状骨に骨透亮像を認め，CTで骨皮質の菲薄化，膨隆と一部途絶を認めた．．．．．

製品紹介 (12:40～12:50)

関節機能改善剤 アルツディスポ関節注 25mg 科研製薬株式会社

上肢 (12:50～13:30)

座長：北村 陽

1. 尺骨非定型骨折の経験

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○白山輝樹、中村恒一、日野雅仁、狩野修治、向山啓二郎、石垣範雄、
太田浩史、畑 幸彦

ビスホスホネート製剤内服歴のある尺骨非定型骨折3例を経験した。硬化した骨折部をドリリングし、プレートによる観血的整復固定術を行った。術後PTH製剤を導入し、2例で骨癒合が得られ、1例は経過観察中である。

2. ※頸肋による胸郭出口症候群に対して頸肋切除術を施行した1例

岡谷市民病院 整形外科¹⁾

流山中央病院 手外科・上肢外科センター²⁾

○泉水康洋¹⁾、内山茂晴¹⁾、田中 学¹⁾、鴨居史樹¹⁾、春日和夫¹⁾、
加藤博之²⁾

32歳男性。5年ほど前からの右手の脱力と、環指小指のしびれを主訴に受診した。諸検査にて頸肋による胸郭出口症候群と診断し、鎖骨上アプローチで頸肋部分切除術を施行した。術後1か月の時点でしびれは軽快した。

3. 反復性肩関節脱臼に対する当院の手術成績の検討

長野市民病院 整形外科

○樽田大輝、松田 智、橋本 瞬、安川紗香、藍葉宗一郎、
新井秀希、藤澤多佳子、中村 功

当院での反復性肩関節脱臼の術式（鏡視下Bankart法、Latarjet法、Bristow法）の成績を比較検討した。過去10年の6か月以上フォローできた症例は43例。いずれの術式でも再脱臼はない。JOA Scoreは全術式、QuickDASHはLatarjet法において有意に改善した。

4. Shoulder36 を用いた肩関節疾患の術後改善パターンの検討

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○日野雅仁、畑 幸彦、石垣範雄

肩関節疾患の術後改善パターンを Shoulder36 (Sh36) を用いて検討した。Sh36 各ドメインについて3群間で術前～術後6か月の改善率と術後6か月から術後1年の改善率をそれぞれ多群間比較を行って調査したので報告する。

5. *橈骨粗面近傍に生じた骨軟骨腫による橈骨頭亜脱臼の1例

信州大学 整形外科¹⁾

流山中央病院 手外科・上肢外科センター²⁾

○中村駿介¹⁾、加藤博之²⁾、岩川紘子¹⁾、宮岡俊輔¹⁾、北村 陽¹⁾、
磯部文洋¹⁾、林 正徳¹⁾、高橋 淳¹⁾

橈骨近位部に生じた骨軟骨腫による肘関節障害の報告は稀である。今回我々は橈骨粗面近傍に生じた骨軟骨腫に伴う橈骨頭亜脱臼の男児に対し、前方進入による腫瘍切除術を行い良好な結果を得たので報告する。

—————<休憩 10 分>—————

腫瘍 (13 : 40～14 : 30)

座長：田中 厚誌

6. 動脈瘤様骨嚢腫再発の risk factor について

信州大学 整形外科¹⁾

信州上田医療センター 整形外科²⁾

○小松幸子¹⁾、岡本正則¹⁾、田中厚誌¹⁾、鬼頭宗久¹⁾、青木 薫¹⁾、
高沢 彰²⁾、吉村康夫²⁾、高橋 淳¹⁾

動脈瘤様骨嚢腫は良性の骨腫瘍類似疾患だが再発しやすい。2000年11月～2019年12月に動脈瘤様骨嚢腫と診断された27例を対象とし、年齢、腫瘍の局在、診断、治療方法における再発率および再発の risk factor について検討した。

7. *術後2か月で外顆骨折を生じた脛骨近位骨端部骨巨細胞腫の1例

信州上田医療センター 整形外科

○重信圭佑、高沢 彰、赤羽 努、吉村康夫

70代女性の脛骨近位骨巨細胞腫に対して拡大搔爬、液体窒素処理、自家骨移植、プレート固定、骨セメント充填を行ったが、術後2か月で外顆骨折を生じた。本症例の経過を検証し骨巨細胞腫の手術法について考察する。

8. ※慢性骨髓炎に合併した扁平上皮癌の1例

飯田市立病院 整形外科

○小田切優也、伊坪敏郎、笹尾真司、畑中大介、伊東秀博、野村隆洋

上腕骨慢性骨髓炎に扁平上皮癌を合併し、肩関節離断術を施行した症例を経験した。四肢慢性骨髓炎に扁平上皮癌が合併することがある。頻度は稀であるが、合併すると高率で四肢切断術、関節離断術が必要となる。

9. 手部に腫瘤を形成したピロリン酸カルシウム結晶沈着症の2例

信州大学 整形外科

○百瀬陽弘、林 正徳、岩川紘子、宮岡俊輔、北村 陽、磯部文洋、高橋 淳

ピロリン酸カルシウム結晶沈着症が関節外に腫瘤を形成することは稀である。今回、手指 MP 関節近傍に腫瘤を形成したピロリン酸カルシウム結晶沈着症の再発例を経験したので報告する。

10. ※診断に難渋した乳児の動脈瘤様骨嚢腫の1例

長野県立こども病院 整形外科¹⁾

長野市民病院 整形外科²⁾

○安川紗香^{1), 2)}、松原光宏¹⁾、酒井典子¹⁾、新井秀希²⁾

乳児における原発性骨腫瘍は非常に稀な疾患であり診断に難渋することが多い。今回我々は生後2か月の乳児に発症した脛骨の動脈瘤様骨嚢腫を経験したので報告する。

11. ※Masquelet 法で再建した放射線照射後大腿骨偽関節の1例

まつもと医療センター 整形外科¹⁾

信州大学 整形外科²⁾

○阿部雪穂¹⁾、鈴木周一郎¹⁾、田中厚誌²⁾、鬼頭宗久²⁾、青木 薫²⁾、
岡本正則²⁾

左大腿骨外性 Ewing 肉腫に対して腫瘍広範切除、術中放射線照射、処理骨再建が行われたが萎縮した処理骨部で骨折を生じた。我々は生物活性のない骨を切除し、Masquelet 法にて骨欠損部を再建したので報告する。

<休憩 10 分>

脊椎 (14 : 40~15 : 40)

座長：大場 悠己

12. 保存治療で良好な経過を得た特発性頸髄硬膜外血腫の2例

安曇野赤十字病院 整形外科

○土屋良真、泉水邦洋、林 大右、福澤拓馬

頸髄硬膜外血腫は、突然の頸部から肩甲部の放散痛の後運動および感覚麻痺を来すまれな疾患であり、多くは原因不明の特発性である。当院にて保存治療により良好な臨床経過を得た特発性頸髄硬膜外血腫の2例を報告する。

13. ＊成人に発症したグリセル症候群の 1 例

信州大学 整形外科

○中井亜美、宮岡嘉就、倉石修吾、池上章太、上原将志、大場悠己、滝沢 崇、
鎌仲貴之、畠中輝枝、宗像 諒、川上 拓、高橋 淳

グリセル症候群は小児の鼻咽頭の炎症後に環軸関節亜脱臼を起こす稀な症候群である。我々は成人発症の 1 例を経験した。装具、抗菌薬による保存加療を第一選択とするが、安定性が得られない場合は固定術を検討する。

14. 脳性麻痺による麻痺性側弯症と股関節脱臼の関連性

長野県立こども病院 整形外科¹⁾

信州大学 整形外科²⁾

○川上 拓¹⁾、酒井典子¹⁾、樋口祥平¹⁾、松原光宏¹⁾、大場悠己²⁾、
畠中輝枝²⁾、上原将志²⁾、池上章太²⁾、高橋 淳²⁾

脳性麻痺による側弯症患者について Cobb 角による重症度別に脱臼合併率を調べた。股関節脱臼合併率は 69%で、側弯症が重症であるほど股関節脱臼を合併している傾向があった。

15. ＊先天性心疾患手術後の肺高血圧症による咯血が脊柱側弯症手術後に改善した 1 例

信州大学 整形外科

○山口浩平、大場悠己、上原将志、倉石修吾、池上章太、高橋 淳

1 歳未満に心臓手術を受けた患者では脊柱側弯症の有病率は 42.4%との報告がある。先天性心疾患術後、脊柱側弯症の急激な進行にともない出現した咯血が、脊柱矯正によって改善した 1 例を経験したので報告する。

16. 腰椎変性すべり症に対する PLF と棘突起縦割式椎弓切除術の global alignment 変化の比較

国保依田窪病院 整形外科

○黒河内大輔、由井睦樹、古作英実、牧山文亮、三澤弘道

Meyerding 分類 Grade I の腰椎変性すべり症に対して当院で施行した後側方固定術 (PLF) と棘突起縦割式椎弓切除術の術前および術後 1 年の global alignment を比較したので報告する。

17. 乳児健診で二分脊椎症をスクリーニングする意義

長野県立こども病院 整形外科¹⁾

長野市民病院 整形外科²⁾

○安川紗香^{1), 2)}、松原光宏¹⁾、酒井典子¹⁾

潜在性二分脊椎症の早期診断には仙尾部の皮膚所見を確認することが重要である。当院の乳児股関節検診で行った潜在性二分脊椎症のスクリーニング結果を報告する。

下肢 (15:50~17:10)

座長：小山 傑

18. 乳児股関節のX線写真

長野県立こども病院 整形外科

○川上 拡、酒井典子、樋口祥平、松原光宏

乳児股関節健診で撮影したX線像で骨頭中心の出現率について検討した。対象は319例で骨頭中心の出現率は23%であった。DDHの治療開始時期を考慮すると骨頭中心を認めない時期に画像診断しなければならない。

19. 大腿骨頭すべり症と肥満の関連

信州大学 整形外科¹⁾

長野県立こども病院 整形外科²⁾

○谷川悠介¹⁾、松原光宏²⁾、酒井典子²⁾、樋口祥平²⁾

大腿骨頭すべり症(SCFE)は肥満児に合併しやすい。今回SCFEと肥満について再検討した。SCFEにおける肥満の割合は近年減少傾向にあった。肥満でなくても跛行の鑑別診断にはSCFEを考慮すべきである。

20. 寛骨臼の巨大な骨欠損の再建を要した人工股関節再置換術の3例

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科

○根本和明、丸山正昭、野村博紀、外立裕之、山岸佑輔

3例の平均年齢は64歳、初回手術から平均22.9年経過していた。塊状骨移植とKT plateを用いて寛骨臼の巨大骨欠損を再建しつつ人工股関節再置換術を施行した。この再建法の適応と手技について述べる。

21. 当科におけるOpen Wedge Distal Tuberosity Osteotomyの短期成績

信州大学 整形外科

○千年亮太、天正恵治、岩浅智哉、小山 傑、下平浩揮、堀内博志、齋藤直人、高橋 淳

近年、open wedge high tibial osteotomy(OWHTO)における術後膝蓋大腿関節軟骨損傷が問題視されており、それを解決する方法としてopen wedge distal tuberosity osteotomy(OWDTO)が考案された。当科でも2019年7月より積極的に導入しており、その1年成績を報告する。

22. ＊大腿骨人工骨頭置換術後4年を経て慢性感染状態で再来院した1例

飯田市立病院 整形外科

○笹尾真司、畑中大介、小田切優也、伊坪敏郎、伊東秀博、野村隆洋

72歳女性。右大腿骨頸部骨折に対し68歳時に人工骨頭置換術を行った後follow upが途絶えていた。人工骨頭感染のため4年後に著しい右臼蓋の破壊を認め再診した。症状の乏しい感染に患者への注意喚起も必要である。

23. 大腿骨近位部骨折術後のインプラント周囲骨折に対する手術の治療成績

伊那中央病院

○畑 宏樹、荻原伸英、樋代洋平、比佐健二、原 一生、小池 毅

高齢人口の増加に伴い、大腿骨近位部骨折手術が激増し、術後の転倒等によるインプラント周囲骨折が散見されるようになった。このインプラント周囲骨折に対する当院での過去5年間の手術治療成績について検討した。

24. ※TKA 術後 10 年でクリック音を生じ Revision TKA で Liner 破損が明らかとなった 1 例

諏訪赤十字病院 整形外科

○野口武昭、小林千益、中川浩之、青木哲宏、小松雅俊、上甲巖雄

81 歳女性。右 TKA 術後 10 年、立ち上がり時にクリック音を生じた。Revision TKA をおこなったところ Liner の破損が判明した。

25. 末期亜脱臼性股関節症に対して大腿骨矯正骨切り術併用人工股関節置換術を施行した 2 例

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科

○野村博紀、丸山正昭、根本和明、外立裕之、山岸佑輔

過去に他医にて股関節温存手術既往歴があり大腿骨変形治癒を伴った末期亜脱臼性股関節症に対して、セメントレスシステムを用いた大腿骨矯正骨切り術を併用して人工股関節置換術が施行された 2 例を報告する。

26. 後十字靱帯温存型人工膝関節置換術後の後十字靱帯—剖検例での検討—（第 1 報）

長野松代総合病院 整形外科¹⁾

信州大学 リハビリテーション科²⁾

○豊田 剛¹⁾、中村順之¹⁾、瀧澤 勉¹⁾、秋月 章¹⁾、堀内博志²⁾

後十字靱帯温存型（CR）TKA の課題は、如何に術後長期に PCL が機能するかである。当科では PCL に愛護的な手術を行い、その妥当性の検証のために剖検による解析を行っている。これまでに得られた知見を報告する。

教育研修講演

(17 : 30～18 : 30)

講 師： 出 家 正 隆 先生

愛知医科大学医学部 整形外科学 主任教授

演 題： 変形性膝関節症に対する最近の知見

座 長 高 橋 淳 先生

信州大学医学部 運動機能学教室 教授

認定単位： 日本整形外科学会専門医資格継続 1 単位

([12] 膝・足関節・足疾患、[13] リハビリテーション (理学療法, 義肢装具を含む)、
認定運動器リハビリテーション医)

※当日リアルタイムで Zoom ミーティングにご参加いただき、①Zoom 上でのビデオ ON (顔出し) および②参加ログを確認し、単位を認定させていただきます。当日画面上で受講が確認できない場合は単位認定が出来ませんのでご注意ください。

事前に単位申し込み、単位料振り込みが必要になります。当日の対応はいたしかねます。